

拝啓

すっかり秋が深まって参りました。世田谷パブリックシアターでは、緊急事態宣言が明けてすぐ、6月17日から演劇ワークショップ（以下、WS）を再開し、8月までは劇場稽古場での企画を中心に行ってきましたが、9月以降は、区内小中学校などからの依頼も少しずつ増え、劇場の外での活動も増えてきました（詳しくは中面をご覧ください）。

嬉しかったことの一つは、主に高齢者を対象としている「下馬地区アートプロジェクト」を10月4日より再開できたことです。家に引きこもっているだけだと心身の健康を害していってしまうと、町内会の方たちが実施の決断をしてくださいました。「下馬地区アートプロジェクト」は今後、内容を変えながら、月2回訪問していく予定です。

さまざまな場所で演劇WSを再開する中で感じるのは、マスクをつけ、人との密をさける中で、無意識のうちにこわばっていた心と身体が、WSが進むにつれてほぐれていくことです。同時に人と人が集うことの大切さも感じています。

今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

敬具

世田谷パブリックシアター 学芸事業の今後の予定（9月～10月）

**11月**

- 4日(水) 下馬地区アートプロジェクト『だれでも表現クラブ・極楽』（高齢者の居場所づくり：月1回）
- 4日(水) かなりゴキゲンなWS 巡回団@ほっとスクール城山（心理的理由他で不登校状態の子ども支援：依頼毎1/4回目）
- 12日(木) かなりゴキゲンなWS 巡回団@芦花中学校2年生（区内小中学校訪問WS：依頼毎）
- 13日(金) 演劇WSラボ「ディスタンスクラブ」（演劇WS専門家育成）
- 19日(木) 下馬地区アートプロジェクト『だれでも写真クラブ・極楽』（高齢者の居場所づくり：月1回）
- 22日(日) 『「今」を考えてカタチにする 学生のための演劇WS』（18歳～25歳の学生がコロナの今を考える：1/5回目）
- 23日(月祝) 『「今」を考えてカタチにする 学生のための演劇WS』（18歳～25歳の学生がコロナの今を考える：2/5回目）
- 25日(水) かなりゴキゲンなWS 巡回団@ほっとスクール城山（心理的理由他で不登校状態の子ども支援：依頼毎2/4回目）
- 26日(木) かなりゴキゲンなWS 巡回団@芦花中学校2年生（区内小中学校訪問WS：依頼毎）
- 27日(金) 『「今」を考えてカタチにする 学生のための演劇WS』（18歳～25歳の学生がコロナの今を考える：3/5回目）
- 28日(土) 『デイ・イン・ザ・シアター～はじめのいっぽ11月』①/②（劇場で行う短時間のWS：月1～数回）
- 28日(土) 弦巻小学校PTA 低学年親子WS（親子関係の構築を目指したPTA発案の企画支援：1/3回目）
- 29日(土) 演劇WSラボ「絵本読み聞かせクラブ」（演劇WS専門家育成）

**12月**

- 1日(火) 演劇WSラボ「ディスタンスクラブ」（演劇WS専門家育成）
- 5日(土) 『世田谷パブリックシアター演劇部 中学生の部』①/②（中学生のための演劇WS）
- 5日(土) 『「今」を考えてカタチにする 学生のための演劇WS』（18歳～25歳の学生がコロナの今を考える：4/5回目）
- 6日(日) 『「今」を考えてカタチにする 学生のための演劇WS』（18歳～25歳の学生がコロナの今を考える：5/5回目）
- 7日(月) 『ダンス食堂 メニュー19 康本雅子』（ダンス公演関連企画）
- 9日(水) 下馬地区アートプロジェクト『だれでも表現クラブ・極楽』（高齢者の居場所づくり：月1回）
- 12日(土) 『デイ・イン・ザ・シアター～はじめのいっぽ12月の寒椿編～』①/②（劇場で行う短時間のWS：月1～数回）
- 12日(土) 弦巻小学校PTA 高学年親子WS（親子の関係構築を目指したPTA発案の企画支援：2/3回目）
- 13日(日) 『三茶にサンタがやってくる』プロジェクト（区内団体連携の生活困窮世帯支援のチャリティイベント）
- 16日(水) かなりゴキゲンなWS 巡回団@ほっとスクール城山（心理的理由他で不登校状態の子ども支援：依頼毎3/4回目）
- 17日(木) かなりゴキゲンなWS 巡回団@芦花中学校2年生（区内小中学校訪問WS：依頼毎）
- 17日(木) 下馬地区アートプロジェクト『だれでも写真クラブ・極楽』（高齢者の居場所づくり：月1回）
- 19日(土) 弦巻小学校PTA 1年生WS（仲間づくりを目指したPTA発案の企画支援：3/3回目）
- 26日(土) 演劇WSラボ「絵本読み聞かせクラブ」（演劇WS専門家育成）

【取材・企画に関するお問合せ】

世田谷パブリックシアター 学芸：恵志 九谷 塩原  
 TEL 03-5432-1526 FAX 03-5432-1559

9月

- 8日(火) ○ かなりゴキゲンなWS 巡回団@駒沢中学校2年 (進行役: 柏木陽) 地域連携
- 11日(金) ○ かなりゴキゲンなWS 巡回団@駒沢中学校2年 (進行役: 柏木陽) 地域連携

- 11日(金) ○ あかちゃんのためのえんげきWS
- 12日(土) ○ 絵本のセカイへしゅっぱつしんこー! (進行役: 有吉宣人、いけだとも実、北村美岬) 劇場

- 18日(金) ○ かなりゴキゲンなWS 巡回団@駒沢中学校2年 (進行役: 柏木陽) 地域連携

- 20日(日) ○ 世田谷パブリックシアター演劇部 中学生の部 (進行役: 田崎葵) 劇場
- 10:00～11:30 秋といえば○○ (進行役: 田崎葵)  
参加者それぞれが、「秋といえば」で出合った言葉から身体で静止画をつくり、そこからお話をつくりました。サンマを焼いていたら、家族が餅をのどに詰まらせて大変! その日の夕食は焦げたサンマになっちゃった。秋の夜長、お月見を楽しんでいると、段差に躓き団子がコロコロ転がって大騒動! など、「秋」をテーマに様々な物語が生まれました。

14:00～15:30 子どもの権利条約 (進行役: とみやまあゆみ)  
「子どもの権利条約」は国連で採択され、発効した子どものための条約です。全54条の条約からいくつかの条約を取り出し、(第14条 思想・良心・宗教の自由)(第19条 暴力などからの保護)(第11条 よその国に連れ去られない権利)などを、身体で表現しました。演劇をつかひながら、子ども達自身にとっての権利を考え直す時間となりました。

- 21日(月・祝) ○ デイ・イン・ザ・シアター ～はじめの一步9月の秋晴れ編～ (進行役: すずきこーた) 劇場
- 10:30～12:30 「どんぐりと山猫」(著: 宮沢賢治)を13歳から72歳の参加者で読んで、主人公の一郎と山猫の出会い、山猫とどんぐりの裁判争いを身体で表現しながら、少しずつシーンに立ち上げ、最後に一つの物語として演劇にしました。夢中になって演劇をつくる大人たちを見て、参加した中学生から、「大人って意外と子どもなんだなあ」という感想がでてみんなで大笑いしました。

15:00～17:00 日常生活の小さな悩みと小さな幸せ (進行役: 大道朋奈)  
「日常生活の困りごと・悩み事」を絵にして共有した後、「これがあったら幸せになれるもの」を札に書き、くじ引きで引いた絵×札の2つの要素がでてくるシーンをつくりました。「ごま油を絨毯にこぼしちゃった×笑い」、「コロナで図書館の本の予約が取れない×ハンドクリーム」、など、繋がりそうもない2つの要素をひとつのシーンに立ち上げるのは大変でしたが、思うようにならないことが多い社会のなかで、誰かの幸せを感じながら、自分自身もちょっとした幸せを手にしたという声があがりました。

- 27日(日) ○ 世田谷パブリックシアター演劇部 中学生の部 (進行役: いけだとも実) 劇場
- 10:00～11:30 「演劇」ってなんじゃるな? (進行役: いけだとも実)  
14:00～15:30 「演劇」ってなんじゃるな? (進行役: いけだとも実)  
一人ひとり「演劇にはこれが必要」と思う要素を紙に書き出して全員で共有したあと、3つのチームに分かれ、チームごとにその要素の中からいくつか選んで、それが「ない」演劇はありえるかを検証しました。各チームで「感情のない場面」や「台詞と動きのない場面」、「終わりとはじまりのない場面」づくり等に取り組み、発表して、それが演劇かどうか意見を交換しました。改めて演劇とは何かを探るとともに、既存の形にとらわれずに新しい表現を考える機会となりました。

今年度はじめての学校での演劇ワークショップ。一学期は休校、分散登校と、集団活動がほとんどできなかったために、クラスづくりを目的に集団活動を行うWSを実施したいという依頼をいただきました。2時限を使い、シアターゲームをした後、グループで協力しながら、進行役から出された単語「栄光」「勝利」「服従」「挫折」「抵抗」「敗北」を表現したり、「あ、危ない!」「やった」などといった台詞からシーンをつくることを試みました。

ねんねのあかちゃんから劇場であそべる『あかちゃんのためのえんげきワークショップ』は、乳幼児の五感に働きかけることを目指した、劇を見ることと、劇に参加することをミックスしたプログラムです。子どももおとなも、いろどりゆたかな音や光、言葉にふれ、感覚をいっぱい使いながら、ここからからだを動かして、いろいろな絵本のセカイを発見しました。



10月

- 1日(木) ○ かなりゴキゲンなWS 巡回団@桜丘小学校6年 (進行役: すずきこーた) 地域連携
- 2日(金) ○ かなりゴキゲンなWS 巡回団@桜丘小学校6年 (進行役: すずきこーた) 地域連携

- 3日(土) ○ 演劇WSラボ (進行役: すずきこーた) その他
- 14:00～18:00 「今後の実践について考えるおしゃべり会」

- 7日(水) ○ 下馬地区アートプロジェクト「だれでも表現クラブ・極楽」 (進行役: 花崎攝、長峰麻貴) 地域連携
- 14:00～16:00 秋の下馬双六(すごるく)づくり  
下馬地区にお住まいの(主に)高齢者の方々に向けた『だれでも表現クラブ・極楽』は「ともに生きている人を見捨てない、自分を捨てない」という極楽の想いを大切に身体を動かしたり、工作したりしています。久しぶりの再開となった今回は、語り合った「故郷の秋の思い出」を木の葉のマスに描いて、「下馬双六」を創作しました。

- 7日(水) ○ 世田谷区立小学校教育研究会(世小研)・教科「日本語」研修 (進行役: とみやまあゆみ) 地域連携

- 10日(土) ○ デイ・イン・ザ・シアター～はじめの一步10月の秋晴れ編 (進行役: 有吉宣人) 劇場
- 14:30～16:30 こっそり (進行役: 有吉宣人)  
「こっそり」している人ってどんな人? 糸電話で「こっそり」話したらどんな感じ? 近づいて話が出来ない今だからこそ、いるんな「こっそり」を考えたり、話し合い、チームごとにそれぞれの「こっそり」をテーマにした演劇をつくりました。

- 11日(日) ○ 世田谷パブリックシアター演劇部 中学生の部 (進行役: とみやまあゆみ) 劇場
- 10:00～11:30 名前の頭文字から「動く」(進行役: とみやまあゆみ)  
2人組になり、相手の名前の頭文字から連想した動詞と動き(例: み→見る→目をこらす)をつくって相手にプレゼント。その後3グループに分かれて、プレゼントされた動きを用いて、自由な発想で、演劇やダンスなどさまざまなシーンをつくりました。

- 20日(火) ○ 演劇WSラボ (進行役: とみやまあゆみ) その他
- 19:00～21:00 絵本読み聞かせクラブ  
絵本は、演劇WSにおいて、子どもたちを物語の世界に呼び込むツールとして力を発揮します。「絵本読み聞かせクラブ」では、一般的な朗読ではなく、子どもたちの創造力を喚起するための絵本の朗読はどうあるべきか、またどのような絵本が適切かを研究していきます。初回の今回は、メンバーそれぞれが絵本を持ち寄り、議論を重ねました。

- 23日(金) ○ ダンス食堂 (進行役: 康本雅子) 劇場
- 19:00～20:30 メニュー19 康本雅子 トーク  
当劇場お馴染みのダンスカンパニーの方をお招きし、トークとワークショップをお届けする「ダンス食堂」。トークイベントは、京都にいる今年度の店主、康本雅子さんと当劇場スタッフとのZOOM対談をライブ配信する形で行われました。ダンスを始めたきっかけ、学生時代についてなど、映像を交えながら貴重なお話を聞くことができました。

- 27日(火) ○ 演劇WSラボ (進行役: とみやまあゆみ) その他
- 15:00～18:00 ディスタンスクラブ  
コロナ禍では、参加者間の身体接触をできるだけ避ける必要があります。そのような場合に、どのようなシアターゲームやアクティビティが有効なのかについて、ディスタンスクラブでは研究します。初回は、これまでメンバーたちがコロナ禍で実践してきた工夫を共有し、さらに、自身が考えている非接触型のシアターゲームをメンバー同士で試行しました。

世田谷パブリックシアターが執筆担当した教科「日本語」6年生の単元ではじめての授業。自分たちの学校生活をサポートして下さった「学校で働く人」たちにインタビューをしてその内容から演劇をつくり、発表しました。校長先生、副校長先生、栄養士さん、担任の先生から子どもの頃のお話や、将来の夢、仕事の内容など普段聞けないお話をたくさん聞きました。

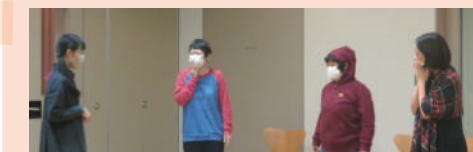
レポート 裏面へ

「演劇WSラボ」は演劇ワークショップ実践者が、演劇WSと社会の関わりについて考え、思考/実験する研究会です。さまざまな視点をもつ人が出会い、互いの関心や悩みを持ち寄り、新たな価値やアイデアを生み出すヒントを探りながら実践を行ってきました。

区立小学校の先生方の研究会で研修を担当。小学校2年生の教科「日本語」単元「登場人物を演じてみよう」の指導方法を深めたいというご依頼でした。コロナ禍の中、距離を保ちながら行う「シアターゲーム」の工夫や、子どもたちにもどのように「表現」を教えたらいのかなど、質疑応答を交えながら熱心に意見が交わされました。

19:00～21:00 秋を過ごす (進行役: 田崎葵)  
秋といえば思い浮かぶもの、例えば「お月見」「梨狩り」「運動会」など、を出し合って、それぞれの「秋」をストップモーションで表現し、一人ひとりの「秋」の表現を組み合わせ、一つの劇を作りました。

14:00～15:30 名前の頭文字から「シーンを作る」 (進行役: とみやまあゆみ)  
2人組になり、相手の名前の一音一音を頭文字とするひとこと台詞をそれぞれつくって、別の2人組にプレゼント。もらった台詞を、その順番通りに使ってひとつの場面を作り上げることに挑戦しました。つながらない台詞で場面を成立させるために、言外の要素をたくさん使った表現となり、工夫をこらしたさまざまな独創的な場面が出来上がりました。





## あかちゃんのためのえんげきワークショップ 「絵本のセカイへしゅっぱつしんこー！」

A：0歳児向け	9月12日（土）11:00～11:45
B：1～2歳児向け	9月11日（金）11:00～11:45
C：3～4歳児向け	9月11日（金）15:30～16:15
D：5歳児向け	9月12日（土）15:30～16:15

「絵本のセカイへしゅっぱつしんこー！」は、劇を見る部分と参加する部分をミックスさせた演劇ワークショップ（以下、WS）です。3人の進行役は、いくつかの絵本から着想を得て、対象年齢に応じたパフォーマンスを創りました。彩り豊かな音や色、光と闇、言葉や声を用いて子どもたちの五感を刺激し、子どもたちが絵本の描く世界をめいっぱい感じて想像力をひろげられるよう工夫しています。

このWSは2019年9月、2020年2月に実施し、今回は3回目となります。このコロナ禍で開催するか悩みましたが、感染症対策をとりながらできることは何か進行役とスタッフ一同で検討し、大幅に内容や会場配置を変更して実現することになりました。

そうして迎えた当日、子どもたちはときに声をあげて身体を動かし、ときに息をのみながら、劇世界を積極的に楽しんでいました。制約がある中での実施でしたが、演劇の自由さと子どもたちの感じる力の強さを改めて実感することになりました。また子どもたちが表情豊かに反応する様子を、保護者の方々が愛おしそうに見つめていたのがとても印象的で、保護者の方からは「すべてのイベントが中止になったので、開催してもらって本当に嬉しい」「久しぶりに家から出た」という声が多く寄せられました。

親子関係にとってよいきっかけとなったことを願うとともに、小さな子をもつ親の孤立化に対し、地域の劇場として今後どのようなことができるかを考えさせられました。



## 世田谷区の独自教科、教科「日本語」に 世田谷パブリックシアターが執筆協力した単元が掲載！

世田谷区では2004年12月に内閣府より「世田谷『日本語』教育特区」の認定を受け、2007年度から区立小・中学校全校において、世田谷区独自の教科である教科「日本語」を実施しています。教科「日本語」では、「深く考える力」「自分の考えや思いを表現する力、コミュニケーション能力」「日本文化を理解し大切に、継承・発展させる力・態度」の3つのねらいを設定しています。

世田谷パブリックシアターは、2007年度より教科「日本語」において、表現に関する単元についてのアイデアを出したり、多くの学校からの依頼を受け、学校を訪問し、年間200回～300回程度の演劇ワークショップを担当してきました。このたび、2020年度からの教科書の改訂に伴い、世田谷パブリックシアターも、小学校5年生・6年生・中学校2年生の教科書の以下の単元を執筆しました。

小学校5年生「故事成語で演劇」

小学校6年生「学校で働く人」（インタビューから演劇づくり）

中学校2年生「演劇をつかって考える『子どもの権利条約について』」

コロナ禍で、スタートが遅れましたが、2学期より少しずつ学校を訪問しています。

